

福祉サービス第三者評価結果報告書(令和3年度)

2022年 3月 22日

株式会社K&N 殿

郵便番号 110-0016

所在地 東京都台東区台東3-2-5大林ビル2F

評価機関名 有限会社 エテルノ

認証評価機関番号

機構 06 - 169

電話番号 03-5812-0840



以下のとおり評価を行いましたので報告します。

福祉サービス種別	小規模保育事業A型		
調査対象事業所名称	株式会社K&N ベイビーピース		
事業所連絡先	郵便番号	134-0091	
	所在地	東京都江戸川区船堀2-15-17	
	電話番号	03-6808-3471	
契約日	2021年	7月	2日
利用者調査票配付日(実施日)	2021年	9月	13日
利用者調査結果報告日	2022年	3月	4日
自己評価の調査票配付日	2021年	9月	11日
自己評価結果報告日	2022年	3月	4日
訪問調査日	2022年	3月	9日
結果合議日	2022年	3月	15日
コメント (利用者調査の工夫点、補助者・専門家等の活用などを記入)	評価実施にあたり、評点基準や根拠書類の準備について、わかりやすく解説した独自マニュアルを用いて説明を行っている。分析シートは記入の手引きを用意し、効果的に情報が整理できるよう工夫を行っている。確認根拠資料は、訪問調査の概ね4週間前までに評価機関への提出を依頼し、根拠の事前確認を行ってから訪問調査を実施している。訪問調査は事業所の課題や良い点を中心に把握することを重点に置いて実施している。合議は、訪問調査終了後に速やかに実施している。		

評価機関から上記及び別紙の調査結果を含む調査結果報告書を受け取りました。

2022年 3月 17日

事業者代表者氏名

園長 遠藤 香織 印



1	<p><b>理念・方針（関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</b></p> <p>事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連 カテゴリー1 リーダーシップと意思決定）</p> <p>保育理念 「ひとりひとりの個性を活かし能力を発揮できる保育園」</p> <p>基本方針  <ul style="list-style-type: none"> <li>・子ども達が「自分には能力がある」「人々は仲間」と思えるような関わり</li> <li>・子ども達の可能性を信じ、寄り添う保育保育目標・勇気づけで自己肯定感を育む</li> <li>・他者と協力することを学ぶ</li> <li>・社会と調和して暮らす</li> </ul> </p>
2	<p><b>期待する職員像（関連 カテゴリー5 職員と組織の能力向上）</b></p> <p>(1)職員に求めている人材像や役割</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本園の理念</li> <li>・方針に基づいて保育できる人材。</li> <li>・自分の考えが絶対ではないということ、人の意見や考えを素直に聞き入れ柔軟に対応できる人材。</li> </ul> <p>(2)職員に期待すること(職員に持って欲しい使命感)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・本園を選び入園してきてくれた利用者へ寄り添った支援ができること。</li> <li>・命を預かっているという意識。</li> <li>・働いてみて、「ここに入って良かった」「長く続けたい」と感じてもらうこと。</li> </ul>

調査対象

保育園に通っている園児17世帯18人に対して調査を行った。同一保育園に2名以上の園児を預けている場合には、年齢の一番低い園児に対して回答して頂いた。

調査方法

施設の職員が調査票を保護者へ配布した。記入された調査票は封緘のうえ返信用封筒による郵送または施設に設置した回収箱により回収を行った。

利用者総数

18

利用者家族総数(世帯)

17

共通評価項目による調査対象者数

17

共通評価項目による調査の有効回答者数

17

利用者家族総数に対する回答者割合(%)

100.0

## 利用者調査全体のコメント

総合的な感想として園に対する満足度は、「大変満足」70.6%、「満足」23.5%の計94.1%であった。  
自由意見では、「乳児さんの頃から英語や造形の先生に教えてもらえることも驚きました」「一人一人に合った対応をしてくれとても柔軟だと思う事が多いです」など、子どもや保護者への配慮など職員の対応、日常の保育などに対する感謝の声が寄せられている。向上または検討を望む意見としては、保護者とのコミュニケーションに関することや保育内容、職員の子どもや保護者への対応、設備に関する事など、回答者個々の考え方や気になる点が寄せられている。設問別では、「心身の発達」「興味や関心」「食事」「自然や社会との関わり」「保育時間の変更」「安全対策」「行事日程」「信頼関係」「整理整頓」「接遇」「病気やけが」「トラブル対応」「気持ちの尊重」「プライバシーの保護」「保育内容の説明」「不満や要望の対応」などの17問中16問が80%以上の支持を得ている。

## 利用者調査結果

共通評価項目 コメント	実数			
	はい	どちらとも いえない	いいえ	無回答 非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	17	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「色々工夫して下さり、発達に合わせて様々なことをチャレンジさせてくれている。とてもありがたいです」という声が寄せられていた。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	17	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「3歳未満でも英語や造形の時間を設けてくれていて、親だけでは提供してあげられない体験を味わせてあげてもらえ嬉しいです」という声が寄せられていた。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	15	2	0	0
「はい」の回答は88.2%、「どちらともいえない」の回答は11.8%であった。 自由意見では、「アレルギー対応に感謝です」という声が寄せられていた。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	16	1	0	0
「はい」の回答は94.1%、「どちらともいえない」の回答は5.9%であった。 自由意見では、「保護者の参加できる行事がもう少しあればよいと思います」という意見が寄せられていた。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	17	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	15	2	0	0
「はい」の回答は88.2%、「どちらともいえない」の回答は11.8%であった。 自由意見では、「メーリングリストいいと思いました」という声が寄せられていた。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	15	2	0	0
「はい」の回答は88.2%、「どちらともいえない」の回答は11.8%であった。 自由意見では、「保護者の参加できる行事がもう少しあればよいと思います」「zoomなどで園の様子が知りたかったです」という意見が寄せられていた。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	15	2	0	0
「はい」の回答は88.2%、「どちらともいえない」の回答は11.8%であった。 自由意見では、「とても信頼しています」という声が寄せられていた。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	15	0	2	0
「はい」の回答は88.2%、「いいえ」の回答は11.8%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	17	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	15	0	1	1
「はい」の回答は88.2%、「いいえ」の回答は5.9%、「無回答・非該当」の回答は5.9%であった。 自由意見では、「体温のみで判断し、子どもの状態の観察不足を感じるがありました」という意見が寄せられていた。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	15	2	0	0
「はい」の回答は88.2%、「どちらともいえない」の回答は11.8%であった。 自由意見では、「報告がないので不明です」という意見が寄せられていた。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	17	0	0	0
「はい」の回答は100.0%であった。 自由意見では、「強引に指示したりするのではなく本人に考えさせるよう対応して下さいて有難く感じています」という声が寄せられている一方、「子どもが意外と覚えていることがあるので、子どもが納得できる切り替えをしてけると嬉しいです」という意見が寄せられていた。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	14	3	0	0
「はい」の回答は82.4%、「どちらともいえない」の回答は17.6%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	15	2	0	0
「はい」の回答は88.2%、「どちらともいえない」の回答は11.8%であった。 自由意見では、「毎日手書きのノートへのコメントありがとうございます」という声が寄せられていた。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	15	0	1	1
「はい」の回答は88.2%、「いいえ」の回答は5.9%、「無回答・非該当」の回答は5.9%であった。 自由意見では、特に参考になるような意見は寄せられていなかった。				
17. 外部の苦情窓口(行政や第三者委員等)にも相談できることを伝えられているか	10	2	4	1
「はい」の回答は58.8%、「どちらともいえない」の回答は11.8%、「いいえ」の回答は23.5%、「無回答・非該当」の回答は5.9%であった。 自由意見では、「不満はそんなにないので伝えて頂く機会もなかったと思います」「直接調べて役所に聞きました」という意見が寄せられていた。				

## II サービス提供のプロセス項目(カテゴリ6-1～3、6-5～6)

No.	共通評価項目		
サブカテゴリ1			
1	サービス情報の提供	サブカテゴリ毎の標準項目実施状況	4/4
評価項目1		評価項目1	
利用希望者等に対してサービスの情報を提供している		評点(〇〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している		
確認済み	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものになっている		
確認済み	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している		
確認済み	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している		
サブカテゴリ1の講評			
<p>ホームページやリーフレットには写真を活用して園の様子をわかりやすく紹介している</p> <p>ホームページには、法人共通の保育理念や日々の保育活動のほか、法人内の系列園の紹介など、法人に関わる情報を詳しく掲載している。ホームページは必要に応じて更新し、日々の生活や食事などの写真を交えて園の雰囲気や伝えられるように配慮している。また、保護者向けに行っている園ブログなどは毎週更新している。子ども・子育て支援情報公表システムに情報を提供し、誰でも園の情報を公表している。</p> <p>見学は個別に案内し、質問や相談にも丁寧に対応している</p> <p>園見学は電話にて随時受け入れており、感染症対策を行いながら園内にて行っている。当日でも、園の状況次第では対応可となっている。見学の際は氏名・連絡先・入園希望のクラスを記録する。見学終了後は、見学記録として保護者や園児の情報を残している。園見学の際は主に園長が対応している。園のしおりをいながら説明をし、質問等には丁寧に対応している。見学時間は10時と15時に設定し、見学希望者が選択する形をとっている。園内で風邪などが流行している際は、見学者の希望も聞きながら玄関にて短時間で話をするなどの対応を取っている。</p> <p>当園では見学時に保育体験の案内、公園で地域の方たちとの交流を積極的に行っている</p> <p>見学時、保護者と離れられそうな子どもは、園児と一緒に遊べる環境を整えている。同じ月齢のクラスで遊ぶ事も可能としている。園見学後の行事の日程案内は行っていないが、入園前の保育体験として、随時遊びに来てもらえるよう話をしている。見学は何度でも受け付けている。公園等でも地域の方たちや利用希望者の方との交流を大切にしており、保育士は積極的に話しかけ、一緒に遊べるような環境を設定している。</p>			

サブカテゴリー2		サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	6/6
2	サービスの開始・終了時の対応		
評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している		
確認済み	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している		
評価項目2 サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している		
確認済み	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように配慮している		
確認済み	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている		
サブカテゴリー2の講評			
<p><b>入園前の説明会や面談には保育園生活がイメージしやすいように説明している</b>  入園が決まった際の入園前の説明会では、個別に見学という形で実際に園の保育の様子を見てもらったり、質問に答えたりしている。入園が決まった利用者には、2月中旬頃から面談を行っている。持ち物に関しては見本を見せながらイメージがつきやすいように説明を行っている。提出してもらった入園申込書、お子様の様子について、アレルギー調査票、食物摂取調査票、児童健康調査票の内容を確認し、児童の健康状態や預かるにあたっての配慮事項などを細かく確認している。利用時間に関しては、勤務状況を踏まえて契約を交わしている。</p> <p><b>入園前の面接で家庭の状況や子どもの様子、保護者の意向などを確認している</b>  入園が決まった利用者へは郵送にて書類(利用契約書、重要事項説明書等)を送り、内容を確認の上、面談時に同意を得てサイン、捺印をもらっている。同意を得る際には、サービス内容や利用料金等に不満や質問がないかをしっかりと話し合う中で聞き取ることを大切にしている。個別的な支援が必要なケースや食物アレルギーのある子どもなどにはさらに詳しく話を聞き、把握した情報は看護師や栄養士も交えて全職員で共有している。また、母子手帳を持参してもらい、出産時の状況や予防接種、定期健診の状況も確認している。</p> <p><b>開始時の不安を緩和するための支援や新たな環境に馴染めるような配慮が行われている</b>  サービス利用開始時は、慣らし保育を1週間かけて行っている。その後は子どもの様子や保護者の仕事との兼ね合いも見ながら保育時間の調整を図っている。新年度は新入園児も多いことから、保育士の配置を多くすることで、一人一人の不安やストレスへの対応を図っている。冷凍母乳の預かりは行っていないが、慣れ親しんだ物(哺乳瓶、タオル等)がある場合は持ち込みも可とし、子どもが落ち着けるような環境を整えている。2歳児クラスの転園先については、事前にアンケートをとり、それを元に希望の範囲内で調整するなど、一家庭ずつ面談を行っている。</p>			

サブカテゴリ3

3	個別状況の記録と計画策定	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	12/12
評価項目1 定められた手順に従ってアセスメント(情報収集、分析および課題設定)を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している		評点(000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している		
確認済み	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している		
確認済み	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている		
評価項目2 全体的な計画や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している		評点(00000)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 指導計画は、全体的な計画を踏まえて、養護(生命の保持・情緒の安定)と教育(健康・人間関係・環境・言葉・表現)の各領域を考慮して作成している		
確認済み	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている		
確認済み	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況(年齢・発達の状況など)に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている		
確認済み	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している		
確認済み	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定め、必要に応じて見直しをしている		



<b>評価項目3</b> 子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
確認済み	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	
確認済み	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	
<b>評価項目4</b> 子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している		<b>評点(〇〇)</b>
<b>評価</b>	<b>標準項目</b>	
確認済み	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	
確認済み	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	
<b>サブカテゴリー3の講評</b>		
<p> <b>子ども一人一人の状況や様子を把握する体制を整え、職員間で共有している</b>            入園時には、一人一人の家庭状況や子どもの様子、個別に必要な配慮事項を確認し、面接用紙に記入して職員間で共有している。また、法人統一の健康ノートを活用して身体測定の結果を記録している。「お子様の様子について」の書面を用いて保護者から見た子どもの性格や家庭でのしつけで気をつけていることなどを聞き取っている。聞き取った内容は担任だけでなく、組織として同じ対応が行えるように情報を共有している。         </p> <p> <b>法人では保育内容や保育書式の統一を図っており、発達の視点も共有している</b>            法人の指導計画作成の手順に従って全体的な計画から年間・個別の月間指導計画も策定している。また、医療的なケア児の子どもに対しては、園長に加え看護師や担当保育士も交えながら保護者との面談を重ねながら、保護者と一緒に個別的計画を考えている。保護者が納得した上で日々の保育の利用を進め、保護者との共育を図る意図して優れた取組と言える。園全体の保育目標や全体的計画については、入園式の際に園長から保護者向けに話を行っている。また、懇談会ではクラスごとに担任から1年間の保育目標や指導計画について話している。         </p> <p> <b>記録や共有体制を整えて子ども達の成長を見守っている</b>            子ども一人一人の日々の様子や変化は保育日誌や園日誌、保健日誌に記録している。指導計画や個人の記録はクラスごとのバインダーにて管理し、保育を担当する全職員が共有している。職員会議は月に一度土曜日の夕方に行っており、正規職員は全員参加している。給食会議も月に一度行い、クラス担任・調理員・園長が参加し、次月の献立のアレルギー対応を確認している。平日は毎日午睡時間を利用し、昼礼で申し送りを行っている。その日出勤している職員が全員参加している。内容は昼礼ノートに記載し、参加できなかった職員は目を通している。         </p>		

サブカテゴリ5		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重		
評価項目1 子どものプライバシー保護を徹底している		評点(〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 子どもに関する情報(事項)を外とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている		
確認済み	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている		
評価項目2 サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している		評点(〇〇〇)	
評価	標準項目		
確認済み	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している		
確認済み	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている		
確認済み	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている		
サブカテゴリ5の講評			
<p>子どもに関する情報の取り扱いには細心の注意を払って対応している</p> <p>個人情報管理規程には、守秘義務の徹底に関する園の方針が明確に記載されており、外部に漏れることがないよう管理をしている。また、持ち帰りは絶対にせず、外部に出さないことを徹底している。外部とのやり取りが必要になった際には、個人情報管理規定に則り、事前に保護者に口頭にて丁寧に説明をし、同意を得ることにしている。さらに、子どもたちにも全裸にならないような着替え方を指導したり、トイレに間仕切りを立てたりして、プライバシーが守られている。子どもたちの羞恥心に対しては、年齢が低いことは関係なく、一人一人に配慮している。</p> <p>職員は、子どもの発想や保護者の心情に寄り添う対応を心がけている</p> <p>子ども一人一人の能力を信じ寄り添う保育方針のもと、職員の保育の方向性が統一されており、日頃から保育の中で児を尊重している。入園前の状況や子どもの環境・生活習慣に配慮した上で保育を実践しており、19名と定員数が少ない為、個別な配慮を行っている。子どもはもちろん、保護者の方の価値観や生活習慣を理解し、受け入れる所から始めている。入園前に得た家庭ごとの子育て観を職員間で共有し、保育園の方針も合わせながら一緒に子育てをしている。子どもの言動をまずは受け入れ、一緒に考え、一緒に共感していく寄り添う保育を行っている。</p> <p>各家庭の状況を理解できるように学びを深め、子どもの人権を守れるように努めている</p> <p>職員は年度当初のミーティングにて、虐待や育児困難家庭への支援に関する知識を学び、虐待の早期発見の大切さや、虐待が疑われる場合の対応について確認している。また、職員間の連携や保護者との連携を深めて子どもの近況や各家庭の状況を把握し、子どもや保護者の思いを共有していけるように努め、区との連携も深めて体制を整えている。さらに、江戸川区児童虐待防止ガイドを書庫に常設し、閲覧している。</p>			

サブカテゴリ6

6	事業所業務の標準化		サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	5/5
	評価項目1 手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている			評点(○○○)
	評価	標準項目		
	確認済み	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている		
確認済み	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている			
確認済み	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している			
評価項目2 サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている		評点(○○)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は変更の時期や見直しの基準が定められている			
確認済み	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている			

サブカテゴリ6の講評

業務の一定水準の確保のための指導や助言、相談を日常的に行っている。  
 業務の一定水準を確保するため、安心・安全面での訓練活動や「安全チェックリスト」を活用した日常的な整備点検、玩具類や遊具の点検などを行っている。日常的にクラス内での話し合いや職員自身の自己点検、リーダーからのアドバイスなども都度に行っている。園長は日常的に園内を巡視して、クラスに入って指導したり職員自己評価の全てに目を通し、適切な助言コメントを加え、職員の成長を支援している。系列園の各園では、毎年詳細な「事業報告書」が作成され、各分野での総括・反省を明らかにしている。

サービスの向上を目指し、適宜見直しを行いながら取り組んでいる  
 サービスの基本事項や手順については、年度によって職員の体制が変わったり、子どもの入れ替わりがある為、提供しているサービスの手順やマニュアルの見直しが必要になることも多い。そのため、提供しているサービスの基本事項や手順等を見直す際は、その時の状況をしっかりと反映している。提供しているサービス基本事項や手順等の見直し時期としては、年度末に見直し改善、更新を行うこととしている。その際は、園長、主任、副主任にて内容を決め、更新後はすぐに職員に周知している。

Ⅲ サービスの実施項目(カテゴリ6-4)

サービスの実施項目		サブカテゴリ4	サブカテゴリ毎の 標準項目実施状況	35/35
1 評価項目1 子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている		評点(〇〇〇〇〇〇)		
評価	標準項目			
確認済み	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている			
確認済み	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけができるよう、環境を工夫している			
確認済み	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している			
確認済み	4. 特別な配慮が必要な子ども(障害のある子どもを含む)の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している			
確認済み	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル(けんか・かみつき等)に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている			
評価項目1の講評				
<p>一人一人の発達や生活環境を考慮し受け入れ時の子どもの状態に合わせて保育をしている</p> <p>一人一人の発達の状況と家庭環境を考慮して朝の受け入れ時の子どもの状態に合わせて保育を行っている。登園時の検温の実施と体調の確認で睡眠や食事また日中の活動に配慮しながら保育を実施している。子どもの発達の年齢に合わせ玩具を用意し環境設定をしている。乳児園でもあり危機管理を徹底し室内に「チャイルドマウス」の大きさを掲示し誤飲の危険性について配慮している。保育士を多く配置することで月齢差や個人差に合わせて一人一人の発達に応じた玩具や遊びの提供ができています。子どもの興味に合わせてクラスをまわりたい保育も実施している。</p> <p>医療的ケアが必要な子どもや障害のある子どもを受け入れ関わり方について研鑽している</p> <p>障害のある子どもや医療的ケアが必要な子どもの受け入れ先が少ない現状を受けて行政と相談しながらどうやったら受け入れることができるかという視点で話し合いを重ねている。保育の中での特別な対応、ミルクの注入、吸引などについて保護者と医療機関の連携指導で実施してきている。代表と園長が保護者と面談を実施し「集団で過ごすことがよいか」「まだ家庭での保育が望ましいか」について話し合い、子どもの最善の利益は何かと考え保育の字実施を決定している。</p> <p>アドラー心理学を保育方針として発達状況に合わせて寄り添った保育を実践している</p> <p>小規模だからできる一人一人に寄り添った保育・一人一人の発達の状態に合わせた保育を実践している。「自分には能力がある」「先生や友だちが仲間だ」と考え子どもの気持ちに寄り添い周りの大人は友だちだと思えるような働きかけを常にしている。友だちがいるから自分で考え行動できるという気持ちを大切に保育を実施している。障害のある子ども、医療的ケアが必要な子ども、多国籍の子どもを受け入れることで子どもたちがお互いを認め合う力が育っている。保育室が区切られていないため自然に異年齢交流ができ認め合える関係作りができています。</p>				

2 評価項目2

子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点(〇〇〇〇)

評価	標準項目
確認済み	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している
確認済み	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している
確認済み	3. 休息(昼寝を含む)の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している
確認済み	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている

評価項目2の講評

それぞれの年齢に合わせて基本的な生活習慣が身につくように保育の中で伝えている

それぞれの発達状況に合わせて基本的な生活習慣が身につくように保育の中で大切さについて伝えている。保育士が一人一人の発達を把握し意欲がわく関わり方をしている。トイレトレーニングは強要することなく他の子どもがトイレに座っている姿を目にするなどで自分から興味をもっていくような対応をしている。食事は苦手な食べ物を無理に食べるのではなく食事が楽しいと思える雰囲気作りをしたり食具を目に入る場所に置き自然に興味をもてる対応をしている。一人一人の意思を尊重し子どもがやりたいと思う気持ちを大切に保育に取り組んでいる。

一日を通して子どもの状況と家庭での就寝時間を考慮し休息時間を配慮している

一日を通して子どもの状況に合わせて休息が取れるように配慮している。休み明けや週末は生活リズムの乱れや疲れが出るため長めの休息を取っている。午睡時間は子どもの状況に応じて調整している。就寝時間の遅い子どもには保護者に生活リズムの大切さについて伝え、園での午睡時間を調整し対応している。保育室が完全に仕切られていないため子どもたちが落ち着いてゆっくり眠ることができるように環境作りを工夫している。

登園時に体調、検温、散歩の可否などを聞き降園時にその日の様子を保護者に伝えている

登園時には体調やお迎え時間や人、検温の実施、散歩の可否について聞き取り、降園時に保護者にその日の様子を伝えている。基本的に担当が対応し日中の様子について丁寧に伝えている。その日に配慮が必要な場合があった時は担当が必ず伝え体調面での相談については主任、副主任、園長が相談に応じ、保護者が不安にならないように配慮している。年齢に合わせた生活習慣や生活リズムの大切さについて園だよりや保健だよりで保護者に伝えている。

3 評価項目3 日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している		評点(〇〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	
確認済み	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	
確認済み	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	
確認済み	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	
確認済み	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	
確認済み	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気づき、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	
評価項目3の講評		
<p><b>小規模保育園の良さを生かし家庭のように安心してくつろげる環境作りを大切にしている</b>          小規模保育園の良さを生かし、子どもたちが長時間過ごす場所として家庭のように安心してくつろげる環境作りを大切にしている。玩具を含めて環境設定は年齢に合ったものを提供し自発的に遊べるように工夫している。子どもたちの遊ぶ様子を見て環境を構成しなおすなど柔軟に対応している。子どもの一人一人の要求に丁寧に答えることで友だちや大人との関係性が育てられていくため、0歳児でも一人の人間としてきちんと向き合うように努めている。危険なことなどの注意は「ダメ」ではなくなぜいけないのかきちんと丁寧に理由を説明して対応している。</p> <p><b>言葉を習得する時期なので保育者の言葉かけや言葉の理解や発語を大切にしている</b>          言葉を習得する時期なので保育者がたくさん言葉かけをして、言葉の理解や発語、やりとりを大切にしている。一人一人に成長に合わせて言葉のやりとりを楽しみながら人と関わることの楽しさや温かさを感じられる保育に取り組んでいる。保育者は常に子どもが聞いていることを意識し正しい日本語で話すことを心掛けている。発語がうまくできない子どもには指差しや気持ちを受け止め代弁しながら発語を促すように取り組んでいる。子ども自身が気持ちの調整ができるように時間をかけて待つことや子どもにも言葉で感謝を伝えている。</p> <p><b>戸外活動や英語、造形教室を通し子どもたちの関心や興味を引き出す取り組みをしている</b>          戸外活動はクラスごとに行い、その月、その日に合わせたねらいを立てている。公園への散歩では遊具で遊ぶこと、季節の自然物に触れることなど具体的なねらいを決めて保育活動を行っている。ねらいが明確になっているため職員間で保育の視点がはっきりし記録や振り返りを行う上で配慮点や子どもの姿、保育の様子、また翌日の計画立案に対してクラス全体で共有している。外部講師による英語教室、造形教室を実施することで表現する楽しさや講師の先生との関わりなど子どもたちの興味を引き出す取り組みをしている。保護者からも楽しみにしている声がある。</p>		

4 評価項目4 日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	
確認済み	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	
確認済み	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	
評価項目4の講評		
<p><b>子どもたちの意欲を高め興味・関心に合わせて計画をし行事に取り組んでいる</b>  当園は0～2歳児ということで行事数は多くない。年齢は小さいが子どもたちの興味や関心に合わせ内容を工夫し、使用するアイテムは職員の手作りになっている。夏祭りなどは各クラスで子どもたちが作ったものを遊びに取り入れ、参加する意欲が高まるように取り組んでいる。園全体の行事ではなくクラス単位で行うなど感染対策も併せて子どもの興味や日常の保育の様子を行事に反映できるように工夫している。ハロウィンの行事では子どもたちが自分で衣装や帽子を選び職員が魔女に変身するなど大人と子どもが一緒に行事を作っている姿が伺える。</p> <p><b>保護者参加の行事の制限するため新たに保育参観を取り入れるなど企画を工夫している</b>  感染症予防のため保育参加の行事を制限せざるを得ないが、新たに保育参観を取り入れ保護者に行事のねらいや保育の様子、子どもの姿を知ってもらう機会を作っている。行事についてはその都度ブログをアップして保護者に様子が伝わるように工夫している。行事後には保護者のアンケートをとり反省や改善点を次の企画に活かすことで保育に対しての理解と協力を深めている。</p> <p><b>職員間でよりよい園づくりを目標に保護者の意向を大切にしたりした行事の見直しを行っている</b>  保護者参加の行事が減ったことで保護者向けのブログをはじめ園での日常の様子だけでなく行事があった日には必ず記事をアップすることで保護者の理解や協力を得ている。当日の子どもたちの喜ぶ姿をその日のうちに保護者向けブログを公開することで改めて感謝の声が上がっている。1年間の行事担当を振り分け、複数人で担当することで、職員間の話し合いや子ども達が楽しめる行事の工夫や振り返りができ次回の企画につなげている。今後は地域への発信や参加について検討している。</p>		

5 評価項目5 保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	
確認済み	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	

評価項目5の講評

家庭のように安心してゆったりくつろげる環境を整備し落ち着いて遊べる工夫をしている  
 当園は保育時間の長い子どもは多くないが、家庭のように安心してゆったりくつろげる環境を整備している。朝・夕の保育はなるべくクラスごとに実施し、特に夕方は疲れもであるため子どもたちの思いを受け止め、パズルやブロック遊びなど落ち着いて過ごせる遊びの提供をしている。2歳児は午後も戸外へ散歩にでるなど気分転換も含めて保育のメリハリがでるように工夫している。パネルシアターや紙芝居、コーナー遊びなど延長保育用の遊びを用意し楽しく過ごせるように工夫している。

保護者が安心してお迎えができるように一日の子どもの様子を丁寧に口頭で伝えている  
 全体的な計画の中に長時間保育の計画を記載し保護者がお迎え時に不安にならないように一日の保育の様子と子ども状態について口頭で丁寧に伝えている。特に乳児期は体調の変化や食事や睡眠など生活の様子について個人差や年齢差が大きいため一人一人丁寧に伝えている。園での状態が家庭での生活の流れに影響するため詳細に伝えることができるように職員間での連携を密にし連絡漏れがないように配慮している。体調については乳児期は急な変化があるため一日の様子を詳細に伝え保護者が対応に困らないように配慮している。

6 評価項目6 子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している		評点(〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	
確認済み	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	
確認済み	3. 子どもの体調(食物アレルギーを含む)や文化の違いに応じた食事を提供している	
確認済み	4. 食についての関心を深めるための取り組み(食材の栽培や子どもの調理活動等)を行っている	

評価項目6の講評

離乳食を含め発達段階と子どもの状況に合わせて一人一人に配慮した給食を提供している  
 子どもの体調や咀嚼が難しい子どもについて対応をしている。成長と共に形状を変え、幼児食をペースト状にするなど一人一人の発達に合わせて給食を提供している。特に医療的ケアが必要な子どもに対しての食事形態は、保護者と医師との連携で誤飲がないように細心の注意を払って実施している。離乳食は少しずつ形状を変化するなどの対応をしている。アレルギーのある子どもへは入園前に保護者と面談し、除去食あるいは代替食の対応をしてご誤食が起きないようにチェック体制を整えている。外国籍の子どもには食文化の違いに対応した給食を実施している。

給食やおやつが楽しいと思えるように子どもの気持ちを大切に環境作りをしている  
 給食やおやつの時間が楽しいと思えるように自分で好きな席に座って食べている。苦手なものを無理に食べさせない、好きなものから食べる、子どもが楽しく会話しながら食事ができるように保育士も会話の輪に入り密を避けながら食事を楽しむ雰囲気作りをしている。毎月イベント献立を作成し行事に合わせたメニューを工夫している。イベント献立の日は写真付き献立を玄関に掲示したりブログにも給食の写真や食事の様子を公開し保護者も関心を寄せ楽しみにしている。

2歳児は年間を通して食育活動を行い栽培や収穫した野菜を入れて給食の提供をしている  
 2歳児は1年間を通して食育活動を行っている。野菜の苗を植え、水やりや生長を楽しんでおり、給食へつなげるよう献立を作成している。野菜の栽培やおやつのおにぎりづくり、芋堀ごっこなど給食で実際に食べる機会があり、調理員も企画や活動に参加し毎年新しいアイデアを取り入れるなど全職員で食育活動に取り組んでいる。



7 評価項目7 子どもが心身の健康を維持できるよう援助している		評点(〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	
確認済み	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	
確認済み	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み(乳幼児突然死症候群の予防を含む)を行っている	
評価項目7の講評		
<p><b>保健の年間計画を立て年齢ごとの健康管理に努め手洗いやうがいの習慣づけを行っている</b> 子どもたちが自分の健康や安全に関心を持てるよう支援している。年齢ごとにクラス的环境設定を配慮しており、ケガや病気の予防に努めている。2歳児クラスでは動と静のバランスを考えた活動ができるように保育室の環境を整えている。子どもが自分の健康に関心をもてるように朝の会で体調などを聞いている。自分のことや友だちの体調の変化にも関心をもてるように言葉かけをして、手洗いやうがいなどの習慣づけを行っている。室内は安全な空間設定をし玩具などの衛生管理に努めている。</p> <p><b>医療的ケアが必要な子どもを受け入れ専門機関や保護者との連携で園全体で対応している</b> 医療的ケアが必要な子どもについては、個別の利用契約を結び専門機関やかかりつけ医、保護者と連携をとり、園全体で体制作りをして対応している。必要な場合は病院や訪問看護、療育施設と連携して指導を受けている。家庭でのアセスメントを確認し園でのケアの方法について事前に看護師と保護者で現場を見ながら確認している。医療的ケアが必要な子どもを受け入れるにあたって、全職員の理解と協力が得られるように園全体で話し合っている。担当保育士や看護師の体制を整え休暇などの対応も行っている。先駆的な実践について行政も理解を示している。</p> <p><b>母子手帳の記載を大切にし嘱託医との連携で内科健診を行い保護者の安心につなげている</b> 入園時と年2回の内科健診において母子手帳の内容を確認している。出生や成長の過程、既往歴、乳児健診、予防接種等について把握し、検診結果については必ず口頭で保護者に伝え、当日欠席の場合は嘱託医における診察をお願いすることで保護者の安心につなげている。感染症が発症した場合は情報を提供し病気の症状、家庭での注意点や似た病気についても知らせることで理解と協力が得られている。SIDSについては入園時に保護者に知らせを出しうつぶせ寝の危険性と家庭での留意点について伝え、園では睡眠時のチェックを行っている。</p>		
8 評価項目8 保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている		評点(〇〇〇〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	
確認済み	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	
確認済み	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	
確認済み	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	
確認済み	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	
評価項目8の講評		
<p><b>就労や家庭の状況に合わせ保護者のニーズを大切にし子育ての不安や悩みに対応している</b> 保護者の就労状況や家庭の状況また保護者自身の要望やニーズに合わせて対応している。保育時間については柔軟に対応し保護者との関係性を大切にしている。登降園の際にはできるだけ担任が子どもの姿や園の様子について連絡帳と口頭で伝えている。保護者向けのブログはクラスごとに書くことで普段の保育の様子を見てもらい安心につなげている。育児における悩みや不安は日々の会話の中で汲み取り、個別に園長や主任、担任が対応し職員間で情報共有し同じ方向性をもって保護者に対応している。</p> <p><b>保護者同士の交流の機会を設け養育力の向上、子育ての考えや保育の理解につなげている</b> 入園式や保育参観の後には懇談会を設け保護者同士が子育てについて話し合う機会を作っている。共通の話ができる雰囲気作りのためにゲームなど保護者も楽しめる場を設定している。「親子あそぼう会」では保育に参加してもらい、ふれあい遊びや手遊びを実施したり運動会の代わりに保育参観で保育を見ながら子どもとの関わりを見てもらう機会を作っている。参加には希望日を聞き参加後はアンケートで感想を書いてもらっている。行事が縮小される中で園としての工夫が見られる取り組みとなっている。</p>		

9 評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている		評点(〇〇)
評価	標準項目	
確認済み	1. 地域資源を活用し、子どもが多様な体験や交流ができるような機会を確保している	
確認済み	2. 園の行事に地域の方の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	
評価項目9の講評		
<p><b>近隣の保育園や施設の職員と連携し行事の交流や子どもたちの体験の機会を作っている</b></p> <p>近隣の保育園と連携し行事の交流を行っている。ハロウィン会は園を行き来しながら交流の機会を作っている。屋外遊技場のりょうなどで子どもたちの遊びの交流も実施している。近隣施設のNPO法人や学童クラブとの交流は散歩などを通して自然物の観察や生き物の餌やりなど子どもたちの体験の幅を広げ、職員との交流の機会も設けている。今後も子どもたちの経験や興味や関心を広げる機会を工夫していく計画になっている。</p> <p><b>連携園との交流と合わせて地域の方との交流の機会を増やしていく計画になっている</b></p> <p>連携園があるため情報共有ができています。地域の方との交流は戸外活動や散歩の機会に限られているため今後行事への招待などの機会を作っていく計画になっている。乳児園としての特色を生かし地域の子育て親子への支援として、育児相談、離乳食相談、試食会、園庭開放、園見学などの情報発信の工夫をして地域に根差し開かれた保育園の役割を果たしていくことを期待している。</p>		

Ⅲ 利用者保護に関する項目

利用者保護に関する項目		標準項目実施状況	9/9
1 評価項目1 利用者の意向(意見・要望・苦情)を多様な方法で把握し、迅速に対応する体制を整えている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている		
確認済み	2. 利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがある		
2 評価項目2 虐待に対し組織的な防止対策と対応をしている 評点(〇〇)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 利用者の気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している		
確認済み	2. 虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関と連携しながら対応する体制を整えている		
3 評価項目3 事業所としてリスクマネジメントに取り組んでいる 評点(〇〇〇●●)			
評価	標準項目		
確認済み	1. 事業所が目指していることの実現を阻害する恐れのあるリスク(事故、感染症、侵入、災害、経営環境の変化など)を洗い出し、どのリスクに対策を講じるかについて優先順位をつけている		
確認済み	2. 優先順位の高さに応じて、リスクに対し必要な対策をとっている		
未実施	3. 災害や深刻な事故等に遭遇した場合に備え、事業継続計画(BCP)を策定している		
未実施	4. リスクに対する必要な対策や事業継続計画について、職員、利用者、関係機関などに周知し、理解して対応できるように取り組んでいる		
確認済み	5. 事故、感染症、侵入、災害などが発生したときは、要因及び対応を分析し、再発防止と対策の見直しに取り組んでいる		
利用者保護の講評(※利用者保護の内容から3つ(必須)記載してください)			
<p><b>組織全体で迅速に対応する体制を引き続き整えてほしい</b></p> <p>苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく活用している。玄関に苦情相談窓口を明記した重要事項説明などの書類を置きいつでも確認できるようにしている。利用者の意向(意見・要望・苦情)に対し、組織的に速やかに対応する仕組みがあり、要望や苦情等の内容を受付けた場合には、その内容を記録し、解決責任者である園長が主となり対応しているが、例えば意見箱などの設置することで、これからも様々な機会をとらえて利用者の意向を把握し、組織全体で迅速に対応する体制を引き続き整えてほしい。</p> <p><b>虐待の防止と早期発見、早期対応を行う体制を、組織として整えている</b></p> <p>保護者対応でうっかりしたことがトラブルにつながらないように、ヒヤリハットに記入して組織的に防止対策を徹底している。虐待を受けている疑いのある利用者の情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、江戸川区児童虐待防止ガイドやベイビーピース児童虐待防止マニュアルを用いて、組織として迅速に対応できるよう管理職の体制を徹底している。また、年度当初には職員ミーティングにて、虐待対応の研修を行い、組織としての対応や関係機関との連携の仕方などを周知している。</p> <p><b>リスクマネジメントの一環としてリスクの特定、ヒヤリハットの洗い出しが行われている</b></p> <p>リスクマネジメントの一環として、子どもの命に関わる問題から優先して対策を講じており、特に災害、侵入、事故、感染症などを位置づけている。預かっている子どもが0~2歳児と小さいため、特にケガや事故が起こらないよう、日頃から環境整備し、小さな改善点の気付きも職員間で共有している。ケガに至らなかったこともヒヤリハットとして洗い出すことで、大きなケガが起こることを防ぐことに活かしている。ケガや事故が起きた時は、インシデントや事故簿に記録を行っている。また、改善点を洗い出し対策を行っている。</p>			

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-5-2	サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している
タイトル①	区内でも先駆けて医療的ケア児を受け入れており、3歳児以降は連携園を設けている	
内容①	当園は3本の柱で子どもたちの自主性を育てており、職員の主体性を汲み取って園運営に反映させて行く仕組みが上手く機能している。地域から愛される園の運営に一体感が生まれ、地域住民や子育て家庭との関わりも広がっており、地域社会における活動として医療的ケア児の保育及び障害児の保育に取り組まれる姿勢などが地域を支えている。この取組の深さには秀逸なものがあり、経営者自らの看護師の経験を保育運営に結びつけている。こうした取組は記録化されており、事業報告書や事業計画書に反映され、運営の透明性を図っている。	

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	医療的ケア児を積極的に受け入れ様々な障害や難病を抱えた子どもも居場所があり周りの人と支えあい社会の中で生活できる場を提供している
	内容	医療的なケアが必要な子どもに対して園長、看護師、担任が保護者との面談を重ね「この子が集団で過ごすこと」と「まだ家庭での療育が必要なのか」について園でできる保育のあり方について話し合い医療的ケア児の受け入れを行っている。吸入、食事後ミルクの注入、マーゲンが抜けた場合の再挿入などケアの方法について保護者と看護師、医療機関との連携で指導を受けながら対応している。クラス保育の中での実施であり職員間の理解と連携、他の保護者の理解や子どもたちの関わりなど子どもと保護者に寄り添った先駆的な実践として期待が高まっている。
2	タイトル	入園面談や健診時に母子手帳を預かり出産状況や成長の記録、乳児健診、予防接種を把握し保護者に共育として母子手帳の理解を深めている
	内容	入園時面談で児童健康調査票をもとに出生から現在までの成長の様子や生活状況を把握し母子手帳で確認している。また年2回の園の内科健診では母子手帳を預かり、区の乳児健診や予防接種の状況を把握している。健診が受けられなかった場合は保護者が直接母子手帳を持ち園医で受診をすることになっている。健診の状況は児童健康調査票に記録しているが常に母子手帳の記載事項と合わせながら子どもの健康状態を把握している。母子手帳の記録が転園・退園・卒園後も子どもの体の状態を知る手がかりになることで共育の一助として活用の機会を広げている。
3	タイトル	当園はアドラー心理学を基にし小規模の良さを生かし自己肯定感や周りの人と協力し子どもも大人も居場所を大切に保育に取り組んでいる
	内容	当園はアドラー心理学をもとに小規模保育園の良さを活かして一人一人に寄り添った保育を実践している。「自分には能力がある」「先生や友だちが仲間だ」と思えることを大切にしており、食事やトイレトレーニングなど、子どもの意志を尊重して保育を行っている。自分の気持ちを調整し、トラブルがあっても納得がいくまで待つことでみんなが笑顔になってよかった。ありがとうと言葉で気持ちを伝え、子どもと対等の関係性を築くなど日常の様々な場面でアドラー心理学をもとにして保育が行われている。方向性が明確になり保育の充実につながっている。
No.	今後の課題と思われる点	
1	タイトル	地域に開かれた保育園として小規模保育園の家庭的な雰囲気と子育て家庭への支援や保育方針の理解を広める手立てを工夫することを期待する
	内容	地域に開かれた保育園として家庭的で温かい雰囲気の良さを活かし、保育所体験や育児講座、出産を迎える親の育児体験学習、実習生の受け入れなど地域の子育て家庭を対象にした取り組みに期待している。乳児専門の施設としての育児のノウハウを伝える機会を設け、子育てで孤立しがちな親の居場所になる保育園としての役割を果たすべく計画立案に期待する。アドラー心理学で子どもを育てることについて地域に認知してもらい機会を増やすためには情報発信の手立てを工夫し、医療的ケア児の保育など先駆的役割を果たしている園として情宣活動に期待する。
2	タイトル	個別計画について、保護者と共有していく仕組みづくりと、その実施に期待している
	内容	個別の指導計画については、2歳児までの全園児に対して作成しており、一人一人の子どもへの細かい配慮が見られる。今後は、ねらいや課題を全保護者へ説明して理解を求めていく仕組みについて検討を期待したい。さらに、子どもに対して同じ視点で園と保護者が課題を共有し、子どもの成長を見守るような関係を築いていくことが期待される。育ちのねらいなども含めた、わかりやすい説明の工夫に取り組んでいくことが期待される。
3	タイトル	苦情解決第三者委員制度のより一層の理解と保護者周知の充実が求められている
	内容	コンプライアンス(法令順守)面ではプライバシーポリシーによるしっかりした仕組みが組み立てられており、職員は法令遵守に努めている。また、法人のホームページで解説している。一方、利用者アンケートでは苦情解決第三者委員制度の認知度が59%であった。保護者理解に向けた分かりやすい説明への取組が十分とは言えず、意見箱などの設置と併せてさらなる取組に期待したい。